

金峯山寺の四本桜

吉野山は、平安時代（794-1185）から桜の名所として愛されてきました。金峯山寺の敷地内には白い花を咲かせる桜の木が数多くみられます。

蔵王堂の入り口手前にある囲いの中には、特に重要な四本の桜の木が植えられています。武家政権の6万の大軍の攻撃を受け、ついに落城する直前に、護良親王はこの場所で最期の宴会を開いたとされています。そしてその宴会の場所を示すのがこの四本の桜であり、護良親王の悲しい歴史を物語っています。